

## 第151回エイズ動向委員会

## 委員長コメント

## 《平成30年 第1・第2四半期》

## 【概要】

1. 今回の報告期間は平成30年1月1日～平成30年3月25日（以下A、前年同時期を $\alpha$ とする）  
平成30年3月26日～平成30年6月24日（以下B、前年同時期を $\beta$ とする）の約半年
2. 新規HIV感染者報告数は (A) 207件及び (B) 219件 (( $\alpha$ )265件及び( $\beta$ )241件)
3. 新規AIDS患者報告数は (A) 83件及び (B) 99件 (( $\alpha$ )84件及び( $\beta$ )99件)
4. HIV感染者とAIDS患者を合わせた新規報告数は (A) 290件及び (B) 318件

## 【感染経路・年齢等の動向】

1. 新規HIV感染者：
  - 同性間性的接触によるものが (A) 148件及び (B) 141件  
(新規HIV感染者報告数の (A) 約71%及び (B) 約64%)
  - 異性間性的接触によるものが (A) 39件及び (B) 44件  
(新規HIV感染者報告数の (A) 約19%及び (B) 約20%)  
そのうち (A) は男性29件、女性10件 (B) は男性33件、女性11件
  - 静注薬物によるものは (A)、(B) 共に0件
  - 母子感染によるものは (A)、(B) 共に0件
  - 年齢別では、20～40代が多い。
2. 新規AIDS患者：
  - 同性間性的接触によるものが (A) 42件及び (B) 61件  
(新規AIDS患者報告数の (A) 約51%及び (B) 約62%)
  - 異性間性的接触によるものが (A) 18件及び (B) 19件  
(新規AIDS患者報告数の (A) 約22%及び (B) 約19%)  
そのうち (A) は男性15件、女性3件 (B) は男性16件、女性3件
  - 静注薬物によるものは (A) 1件及び (B) 0件
  - 母子感染によるものは (A)、(B) 共に0件
  - 年齢別では、30～40代が多い。

## 【検査・相談件数の概況（平成30年1月～6月）】

1. 保健所におけるHIV抗体検査件数は (A) 19,791件及び (B) 22,694件  
(前年同時期確定値( $\alpha$ )20,833件及び( $\beta$ )22,772件)  
自治体を実施する保健所以外の検査件数は (A) 7,576件及び (B) 8,462件  
(前年同時期確定値( $\alpha$ )7,145件及び( $\beta$ )7,869件)
2. 保健所等における相談件数は (A) 29,636件及び (B) 31,477件  
(前年同時期確定値( $\alpha$ )28,833件及び( $\beta$ )30,419件)

## 【献血の概況（平成30年1月～6月）】

1. 献血件数（速報値）は、2,335,128件（前年同時期2,404,606件）
2. そのうちHIV抗体・核酸増幅検査陽性件数（速報値）は21件（前年同時期26件）  
10万件当たりの陽性件数（速報値）は、0.899件（前年同時期1.081件）

## 《まとめ》

1. 平成30年の新規HIV感染者報告数を前年同時期と比較すると、第1、第2四半期共に前年同時期より減少していた。新規AIDS患者報告数については、第1四半期は前年同時期より減少し、第2四半期は前年同時期と同数だった。
2. これまでと同様、平成30年上半期の新規HIV感染者は20～40代、新規AIDS患者は30～40代で報告数が多かった。平成30年第1四半期に10歳代のHIV感染が報告された。一方で、平成30年第1四半期及び第2四半期に70歳以上の新規エイズ患者も報告されており、幅広い年齢層の報告がある。
3. 平成30年第1四半期及び第2四半期の保健所等におけるHIV抗体検査件数及び相談件数は前年同時期と同程度であった。早期発見は個人においては早期治療、社会においては感染の拡大防止に結びつくので、今後も保健所等の無料・匿名HIV抗体検査及び相談を積極的に利用していただきたい。